



論点整理

第四章 情報活用能力の抜本的向上と 質の高い探究的な学びの実現 ③

質の高い探究的な学びの実現 ①

1 小学校段階

- ◆ 教育課程上の位置付けとしては、情報技術の活用の可能性が最も大きく、体験的な活動が充実している総合において、情報技術の適切な取扱いや特性の理解の基礎も含めて、探究的な学びと一体的・重点的に指導できるよう、情報活用能力を育む領域を付加すべき



- ◆ その際、情報技術の学習自体が総合の目的であるとの誤解を受けないよう、「自ら課題を設定し、解決に取り組むことを通じて自己の生き方を考えていく」という探究的な学びの特質が十分に発揮されるよう配慮すべき

2 中学校・高等学校段階

- ◆ 小学校段階での一定レベルの情報活用能力の育成を前提とすれば、総合ではなく、現行の技術・家庭科（技術分野）を主たる受け皿と想定し、生成 AI 等の先端技術を含めた適切な取扱いや特性の理解を学び、総合をはじめ各教科等での探究的な学びのプロセスに活かすべき
- ◆ こうした観点から、中学校では、技術・家庭科を二つの教科に分離した上で、現行の技術分野において情報技術をより深く、広く学ぶこととしつつ、情報（D）領域のみならず、A～C 領域でも情報技術との関連を強化し、全体として「ものづくり」と実生活・実社会をつなげる探究的な学びを充実させるべき
- ◆ 高校では、小学校・中学校の系統性を踏まえて情報科の内容を充実しつつ、総合や各教科等での探究的な学びとの関連を図るべき

互いの人柄や能力を認め合う

あんべいちゅう よ ひと まじ ひさ これ けい
晏平仲は、善く人と交わる。久しくして之を敬す。

(訳) 齊の国の宰相である晏平仲は、誰とでもよく付き合った。

そして長く付き合えば付き合うほど、友人たちが彼を尊敬するようになった。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）